

成績表：昨年の「ホットな技術」選考を自己採点する

昨年、我々はきっと良い水晶玉を見つけたのだろう。というか、我々がストレージ技術動向を追いかけるのが好きなだけかも知れないが。

どちらにしても、昨年のホットな技術の選考はかなりいい線を行くことができた。

A	エンタープライズクラス全フラッシュアレイ	2015年、全半導体ストレージアレイは大ブレイクした。老舗ベンダーも新興ベンダーも、スナップショット、レプリケーション、重複排除などのエンタープライズにとって重要な機能を追加した。昨年、全半導体ストレージアレイ (AFA: All-Flash Array) は主流になりかけたこともあった。
B+	クラウドベースの災害復旧 (DR)	クラウドの災害復旧にB+は、気前がいいかもしれないが、まあ良しとしよう。クラウドの災害復旧は、これまでの災害復旧計画のなかで最良のものだろう。ただ、ユーザーが採用するスピードは、我々が思っていたのより遅かった。
B+	ハイブリッドストレージアレイ	成績表を嵩増しするだけのためにこれを入れたのかも、なんてことは置いといて、2015年ハイブリッドアレイ市場が軌道に乗ったのは認めざるを得ないだろう。みんな何かしらの製品を売っているだけでなく、みんな何かしらの製品を買っている。
B	VMware仮想ボリューム (VVOL)	VMware Virtual Volumesすなわち、VVOLは2015年たくさんのニュースに載った。しかし、我々は少しフライングしたようだ。というのは、この技術はまだこれから出荷されるストレージ製品に入ろうとしているところだからだ。
B	フラッシュ・キャッシング	フラッシュ・キャッシングは2015年を通してかなり重要な技術だったが、もっぱらハイブリッドアレイや全半導体ストレージアレイの一部としての登場がほとんどで、スタンドアローンのソフトウェアとしての登場はそれほどでもなかった。だから、我々は空振りはしてないが、ホームランをかつ飛ばしたわけでもない。
B	ネットワークサーバーベースのストレージ	ハイパーコンバージド・システムは2015年、すさまじい注目を浴びたが、自作でソフトウェアのアレイを構築するアプローチは、あまり注目を浴びなかった。その部分、我々の予測は少しもやっとしていた。ということで、まあまあのお出来B。